

社会・文化・教育



キーワード：乳幼児、母子保健教育

乳児期における適時な保護者への保健指導

看護学部 看護学科 助教

北野 美月 KITANO Mitsuki

研究の内容

子どもが誕生し日々楽しく日常生活を送る中で、子どもの成長は予想外に発達していることもある。成長過程において子どもの事故は常に隣り合わせでもある。特に乳児の発達は著しく、目を離したすきに転倒や転落をしてしまうケースがある。殆どは命に別状なく済むケースではあるが、まれに頭部を打撲し予後に大きな影響を及ぼしてしまうケースもある。また、自宅での頭部外傷は虐待を疑われてしまうケースもある。余儀なく親子分離された保護者の体験から、親子が感じた苦しみを少しでも軽減するために、看護者としての支援的な関わりを行うには、先入観をなくし寄り添う姿勢が大切であると示唆された。また、乳児期の発育・発達における、適切な保健指導の時期やあり方について検討することで、子どもの健やかな成長・発達を促し更なる事故防止対策に繋げることができると考える。

産学連携・社会連携へのアピールポイント

乳幼児の事故は突然と起こり得ることである。適切な時期と情報提供の仕方を伝えることで、家庭での事故対策や予防ができ、安心して親子が生活できる環境作りができると考える。

研究者総覧（北野 美月）

URL : http://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001276_ja.html

